

合格率 10%の試験と 20%以上の試験の違い

こんにちは九頭（くず）です
今回は

合格率が 10%の検定試験とそれ以外の試験（こちらでは便宜上「20%以上の試験」と定義します）

の違いについてご紹介したいと思います。

なぜ私がこのような話が出るのか？

いきなりこのような話をしようとする、私の事を知らない方からすれば

「お前誰やねん！」

と言う話になると思いますので私の自己紹介を簡単に

私は高校時代から簿記検定の受験を始め、その後税理士試験に合格、独学でFP2級まで取得（1級は面倒なのでやってません（笑））

そして、簿記の試験監督の経験もあります。（採点もしたことがありますよ！）

それらの経験談を踏まえたうえでのお話となります。

まずは合格率 20%以上の試験について

簿記で言うと日商簿記検定の2級まで（2級は最近難しくなっているが）、全経簿記で言うと1級までの試験の事を「20%以上の試験と定義しています」

これらの試験の特徴は基本的に過去問を繰り返し解けば高確率で合格できるものになります。

というのも、過去問と同じような出題方式で出題されることが多いので過去問と同じような解き方をすることで合格点が見込めるのです

時折イレギュラーな問題が出ると合格率は下がるが基本は過去問を繰り返す解くことで合格できます

なので、解き方を身に付けると分かっていなくても何とかなってしまうものなのです。言い方は悪いですが、多少思考停止していても答えが出せてしまいます

合格だけが目的なら安定して9割以上の点数が取れるまで過去問をひたすら解き続けるのが必勝法となります。

この状態まで持っていければ多少イレギュラーな問題が出ても合格点を残せる確率は高くなります。

次は合格率10%の試験について

次は合格率が10%の試験についてです。

日商簿記検定の1級や全経簿記検定の上級、税理士試験の各科目などがこれに当たります。特徴としては過去に出題された範囲であっても出題のされ方が異なることが多いです。

例えば「 $A \times B$ 」という計算式で解ける問題があったとします。

20%以上の試験だと以前と似たような出題のため、以前と同じように解けば点数が取れます。

しかし、10%の試験だとこうはいきません。

10%の試験だとAという数字を出すためにCという数字とDという数字を使ってAを出さなければならなかったりします。

中学の数学の「速さ・時間・距離」で例えると20%以上の試験は「時速〇キロ」と書かれているけど10%の試験は分速などで書かれていて時速に換算しなければならない、と言った感じです。

厄介なものはAに似た異なる数字があり、20%以上の試験と同じ感覚で解くと引っかかってしまいます。

実際に私が64点で不合格になった日商簿記検定の1級では似たような数字が置かれていてそれを使うと間違えてしまう、というトラップがありました。

このような問題の対策は

普段の過去問や問題の演習の中で

「どのように答えを出さないといけないのか？」

「なぜ、この答え方になるのか？」

答えという結果よりも答え方という過程にこだわった学習が必要になります。

これをしないと合格は半分は運頼みになってしまいます

でも、これをやると運が悪くなければ合格できるようになります。

先ほど私が引っかかったものを「トラップ」と呼びましたが、きちんと勉強していればトラップでもなんでもないのです。

私の実力が不足していたからトラップに見えてしまっただけなのです。

そして、本来ならば20%以上の試験に関しても同じように過程にこだわった学習をすべきと私は考えています。

2019年2月の第151回日商簿記の2級は合格率が約12%とかなり低いものになりました。

「連結会計」という試験範囲の中でも難しい論点で、しかもその連結会計の中でも難しい問題が出たのです。

難しい論点の中でも難しい問題

「難しすぎるのでは？」

と新聞にも掲載される事態となりました。

ただ、過程にこだわって理解をしていればある程度は出来たはずなのです。

正直その論点で満点は難しいでしょう。

しかし、普段の学習次第ではきちんと得点できる場所があったはずです。

こういった時の対応力を上げるために過程にこだわった学習をすべきと私は思っています。

資格の勉強をされる方の中には転職目的の方もいらっしゃると思います。

しかし、雇う側の立場で考えてみてください。

会社は問題を解く能力が欲しいのではなく、取得している資格に見合った知識と、その知識を使いこなせる実力を欲しています

実務の世界では検定試験の問題通りのシチュエーションがいつも来てくれるわけではあり

ません。

イレギュラーなことが何度も起こります。

そんな時に

「このパターンでは分かりません」

では、雇う側の期待に応えることは出来ません。

なので、本来ならば20%以上の試験でも過程にこだわるべきなのです

簿記や税理士試験の合格率10%の秘密

実は簿記検定や税理士試験は合格率が「10%になっている」のではなく、「10%にしている」ことが多いのです。

こちらの秘密は今回のこちらの記事の感想をくださった方に音声コンテンツでお送りしたいと思います。

感想の送り方は簡単です。

まずは私の公式LINEに登録していただきます

詳しくはこちらを参照ください → <https://note.com/zeirishikuzu/n/n3b0576c13b0c>

公式LINEに登録後に簡単な質問が出てきますので、それに答えた後に感想をお送りください

感想を確認後に私の方から

「合格率が10%になっているのではなく10%にしている」

の音声をプレゼントさせていただきます。

LINEからお送りいたしますのでスマホでお聴きいただけます。